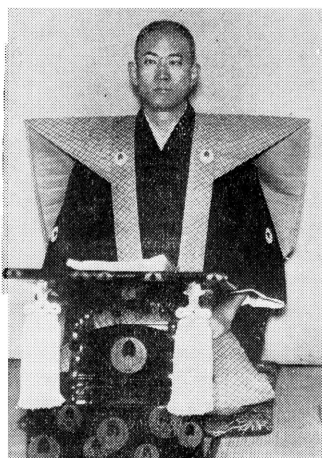


竹本源大夫系譜



天 太 源 世 七



天 太 源 世 八

序

竹本源太夫ノ名跡ハ、古ク淨曲ノ祖、竹本義太夫ノ直弟子ヨリ起リ、今日ニ及ブ、其間諸説アリ、初代ヨリ中間數代ヲ飛ビテ、先代源太夫（尾崎）ヲ二代也ト云フ人モアリ、先代源太夫夙ニ系譜ヲ詳カニセント、確實ナル文献ト傳統トヲ求メ、專ラ調査ヲ進メシコトニ留意セルモ、不慮病魔ノ襲フ處トナリ、創意挫折ノ止ムナキ至リ遺憾ノ念禁ズル能ハズ、苦慮セシガ、幸ヒ二代目豊竹古靱太夫師淨曲古實ニ明カニシテ數多ノ文献ヲ保存且ツ調査セラレ居ルヲ知り、同師ニ右ノ事情ヲ具シ、其檢纂方ヲ依願セシニ、早速快諾アリ、百方檢討遂ニ確實ナル基礎ニ準據、本系譜ノ作成ヲ遂行シ賜ハリタリ、誠ニ忙中只管ナル努力ト好意トハ感謝ニ堪エサル處也、仍テ是レヲ先代ノ靈前ニ供へ親シク報告シ、靈ヲ慰

ムルト共ニ一家一門其ノ厚誼ヲ深謝セル次第殊ニ、本年ハ先代三
回忌ニ當リ不省八世ヲ襲フヲ記念シ茲ニ本譜ヲ上梓以テ後世ニ傳
エントス

昭和十二年二月

八 世 竹 本 源 太 夫

七世源太夫嗣子 鶴 澤 清 二 郎

源太夫名跡發祥

初代

元祖義太夫之門人 多川源太夫ニ始マル

大阪之産、師ノ存命中ハ竹本西之芝居ニ勤メ師死去後ハ豊竹東之芝居ヲ助ケル

享保九甲辰年三月廿一日大阪三郷大火之時豊竹座モ類焼ス、夫レヨリ曾根崎新地芝居へ移リテ興行、夏中伊勢古市（一座引越シ九月下旬大阪へ歸リ來ル）、其内東之芝居敷地ヲ買求メ上野少椽新築普請成就、新芝居ニ於テ同年十月十六日初日女禪丸新作出演此興行ヲ勤メテ退座後、死去、法名月日不詳

二代

豊竹源太夫 竹本ニモ成リ豊竹トモ成ル

源太夫名跡發祥

初代

元祖義太夫之門人 多川源太夫ニ始マル

大阪之産、師ノ存命中ハ竹本西之芝居ニ勤メ師死去後ハ豊竹東之芝居ヲ助ケル

享保九甲辰年三月廿一日大阪三郷大火之時豊竹座モ類焼ス、夫レヨリ曾根崎新地芝居ヘ移リテ興行、夏中伊勢古市（一座引越シ九月下旬大阪ヘ歸リ來ル）、其内東之芝居敷地ヲ買求メ上野少椽新築普請成就、新芝居ニ於テ同年十月十六日初日女禪丸新作出演此興行ヲ勤メテ退座後、死去、法名月日不詳

二代

豊竹源太夫 竹本ニモ成リ豊竹トモ成ル

二代目豊若竹太夫之門人 寶曆五甲亥年九月興行ニ始メテ出座
道行ノシテヲ勤メ、後ニ江戸へ趣キ永々逗留シ明和ノ頃歸阪各芝
居ヲ勤ム、同八年改元安永ト成ル、引續キ出座、安永九年改元有
リ天明ト成ル、同二年稻荷社内芝居座元豊竹與吉、後見豊竹源太
夫ト櫓下ニアル、役ハ芦屋道滿大内鑑ノ三段目切ト四段目ノ跡、
次ハ同座ニテ伊達競阿國戲場豆腐屋ノ切ト埴生村ノ切ニ役勤ム、
同三月興行ニハ豊竹源太夫座元ト成ル、前ニ梅野由兵衛聚樂町ノ
段ト切ニ和田合戦四之切勤ム、右三興行稻荷芝居古番附有リ
二代目ハ豊竹ヨリ出テ中途竹本ヲモ名乗ル

其後死去、年月日不詳

系圖ニハ源太夫名跡此太夫ヲ以テ初代ト記シアリ

三代

竹本源太夫

初代豊竹岡太夫之門人ニテ大源之名前ヲ讓受ケシ

人系圖ニアリ

何事モ不詳

四代

竹本源太夫

初代君太夫之門人ニテ初名ヲ初太夫ト云フ、後ニ

源太夫ト改名、寛政ノ頃ヨリ修行、師匠文化ノ末ニ死去、遺言ニ

依テ師名タル君太夫二代目ヲ襲名ス、文政ノ始メニ江戸へ出勸、

同七年ニ歸阪後立派ナル太夫ト成ル、文政十一年之頃ハ二段目切

四段目切語リトナル

千日前自安寺妙見宮ヲ信仰ニテ大石燈籠一基奉納ナシ其軸石ニ大

文字ニテ

豊竹君太夫ト彫附有リ

死去年月日不詳

五代

竹本源太夫 三代目筆太夫之門人ニテ通稱鼻源ト云フ、文化ノ半頃ヨリ出座追々出精シ文化十酉年九月稻荷社内芝居ニテ糸櫻本町育芝崎之段ト切掛合長尾邸之段ヲ勤ム、全十月彦山權現一味齊邸之口ト杉阪之段奥ヲ勤メ、全十一月箱根靈驗筆助内ノ中ト鶴ヶ岡之段奥ニ天神堤之段ノ三役ヲ勤メル、同月廿三日初日敵討優曇華龜山御千度之段、奥庭之掛合、全十二月廿二日ヨリ翌文化十一年春へ持越シテ下總國累語大宮司邸之段ノ中ニ柴蒨之段ト奥殿之段掛合トヲ勤ム、同年二月酒吞童子話六郎治内之段、保昌邸之中節事鬼ヶ城ヲ勤メル、同年四月愛護稚名歌勝関道行ノシテト三井寺ノ段口、同年五月ニハ木下蔭狹間合戰壬生村之段口、同六月ニ戀娘昔八丈屋敷之段、同七月興行ニ頼光跡目論、大江山ノ段ト切

景事、同八月ニハひらかな盛衰記二段目ノ口ト博多織戀鏝下ノ卷
ノ口ト帶屋ノ道行ノツレ、同十二月ニ新百人一首雨乞之段ト道行
ノシテ、田井畑之段ノ口三役ヲ勤メル

文化十二年、廿四孝百度石ノ段ト阿波鳴戸長町裏之段ヲ勤メ暫時
休座

文政元年正月、勝鬨學源氏ノ時、奥庭之段ト神木之段、同年同月
廿四日ヨリ本朝廿四孝二段目ノ中ト切ノ天網島紙屋内之中、同五
月蘭奢待新田系圖ノ時、三段目ノ奥ト切ノ織合團七嶋ノ長町裏掛
合、同廿八日ヨリみこりニテ師匠筆太夫ノ岸之姫松轡鑑三段ノ切
其中朝日奈上使之段ヲ勤メテ後死去之由年月日不詳

此役割ノ番附皆々アリ

六 代

竹本源太夫 五代目春太夫之門人ニテ伊勢泊リノ人明治九年ヨリ因會へ加入師春太夫死去後兄弟子二代目越路太夫へ預リ弟子トナリ修行、後ニ彦六座へ出勤、永ラク勤メテ中々好人氣後年明治三十年一月興行ヨリ御靈文樂座へ出座ナス

明治卅四年十一月廿一日死去

法名 聲譽調和淨源信士

俗名 式井小兵衛 行年六十五

七代

竹本源太夫 式井源太夫門人ニテ初名源子太夫ト云フ明治廿五年十月彦六座興行伊賀越之時、始メテ大序ニ名前乗ル、夫レヨリ追々修行シ全三十年六月全座箱根靈驗ノ時、筆助内ノ中ヲ勤ム、是レ限リニテ彦六座閉場、座員ハ翌年堀江明樂座ニ旗上ゲナス師

匠源太夫ハ文樂座ニ出勤ニ付全三十一年九月、双蝶々曲輪日記興行ノ時ヨリ同源子太夫文樂座ニ出勤トナル、序中ノ終リへ名前附ケ出ス、夫レヨリ追々出世修行ヲナシ師匠死去後、全三十九年四月興行ニ攝津大椽新口村ノ段ノ中ヲ役附、師名源太夫名跡ヲ襲名ス師死去後ハ攝津大椽ノ門人トナリ大正四年二月興行伊賀城ノ時、切ノ字ヲ書カズニ圓覺寺前半ヲ語ル

全五年三月興行妹背山ノ時、二ノ切奥山ノ段ヲ語ル、全年十月興行狹間合戦ノ時、切ノ字ヲ書カズニ來作住家ノ切ヲ勤ム

全六年五月興行日吉丸ノ時、二段目茶碗屋ノ段ヲ序切ニテ勤ム、此時始メテ切ヲ書ク

全七年一月興行菅原ノ時、道明寺ノ段奥半段ヲ六世彌太夫、前半段ヲ源太夫勤ム

全二月興行八犬傳二段目切富山之段ヲ勤ム

全三月興行妹背山二ノ切奥山ノ段ヲ勤ム

全四月興行鏡山二ノ切花若切腹ノ段ヲ勤ム

全九年三月興行一味齊屋敷ノ切ヲ語ル此段ヲ序切ニテ勤ム

全十年三月興行於駒才三鈴ヶ森之段ヲ勤ム

全十二年五月興行鏡山又助住家ノ段切ヲ勤ム

全九月興行忠臣藏掛合平右衛門初役、九段目中雪こかし二役勤ム

全十三年正月興行菅原傳授車引掛合、時平ト追出シ附物銘々傳赤

垣源藏出立ノ段ヲ始メテ追出シニ語ル

全十五年五月興行菅原櫻丸腹切ノ段ヲ奥半段語ル

全六月興行朝顔日記笑樂之段ト附物妹背山三ノ切掛合定高ヲ語ル

大判事叶太夫

全九月興行追出附伊勢音頭油屋十人伐ノ段ヲ勤ム

此年十一月興行千秋樂翌二十九日文樂座出火全燒ス

同年改元、昭和元年ト成ル

昭和二年二月興行辨天座ニ於テ、本朝二十四孝三段目切ヲ前半段勤ム奥ハ叶太夫

全四年三月興行道頓堀辨天座ニ於テ繪本太功記杉ノ森之段切ヲ勤ム

全五月興行一ノ谷二ノ切流シ枝ノ段ヲ勤ム

此年代ノ間々ハ種々ナル端場ヲ語り且又病氣ニテ欠勤モアリ只々切場ノ主ナル所ヲ勤メシヲ書出ス

此後病氣ニテ芝居ヲ引キ養生專一二セシガ惜シキカナ昭和十年四月七日死去 俗名尾崎舛一郎

法名 淨智院釋良源 行年五十五

八代

同尾崎源太夫門人

源路太夫 師名襲名

明治四十二年正月、新薄雪物語此時大序二枚目ニ名前出ル
全四十四年十月、源平布引瀧、此時大序ノ眞トナル

大正元年九月大序拔ケテ序中ニ入ル

全三年三月序中ノ眞トナル

全四年一月序中ヲ拔ケル

文樂座ニ於テ永ラク修行現今ニ至ル

昭和十二年三月ニ師名源太夫ヲ襲名ス